（１）社会を生き抜く力の養成

～多様で変化の激しい社会での個人の自立と協働～

（個人の自立と様々な人々との協働に向けた力）

○　グローバル化や情報化の進展などにより予想を超えたスピードで変化し多様化が一層進む社会を生き抜くためには，これまでの大量生産・流通・消費などのニーズに対応し与えられた情報を短期間に理解，再生，反復する力だけではなく，個人や社会の多様性を尊重しつつ，幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造したり，他者と協働したりする能力等が求められる。

○　換言すれば，多様な知識が生み出され，流通し，課題も一層複雑化し，一律の正解が必ずしも見いだせない社会では，学習者自身が，生涯にわたり，自身に必要な知識や能力を認識し，身に付け，他者との関わり合いや実生活の中で応用し，実践できるような主体的・能動的な力が求められている。

○　また，日本の中学生・高校生は，諸外国と比べて，相対的に自己肯定感に乏しいとの調査報告があることにも留意する必要がある[*6]。

（東日本大震災の教訓）

○　特に，東日本大震災を受け，上記の力の中でも，非日常的，想定外の事象や社会生活・職業生活上の様々な困難に直面しても，諦めることなく，状況を主体的かつ的確に判断し臨機応変に行動する力やコミュニケーション能力などの必要性が改めて浮き彫りになった。

（今後の学習の在り方）

○　このような力やそれを身に付けさせるための教育の必要性は，知識基盤社会への移行を踏まえて課題とされ，ＯＥＣＤが主導し国際合意された「キー・コンピテンシー」に代表されるように，今や国際的に常識となりつつある。また，我が国において育成を目指してきた「生きる力」や「課題探求能力」など[*7]も，上記の能力と軌を一にするものである。

○　上記を踏まえた教育の在り方として，今後は，一方向・一斉型の授業だけではなく，ＩＣＴなども活用しつつ，個々の能力や特性に応じた学びを通じた基礎的な知識・技能の確実な修得や，子どもたち同士の学び合い，さらには身近な地域や外国に至るまで学校内外の様々な人々との協働学習や多様な体験を通じた課題探求型の学習など，学習者の生活意欲，学習意欲，知的好奇心を十分に引き出すような新たな形態の学習の推進が求められる。

同時に，教員の多忙な状況や学校が多大な社会的要求を抱えている現状に十分意を用い，教科指導等に要する時間を教員が十分確保できるよう，ＩＣＴなども活用した校務の効率化や，地域内外の多様な人々との協働を図っていくことが必要である。

○　その際，「何を教えるのか」という視点のみならず「何を修得したのか」という視点が学習者本人にとっても学習を提供する側にとっても求められることを一層重視する必要がある。

○　あわせて，持続可能な社会の構築という見地からは，「関わり」「つながり」

*6 ＜中学生・高校生の自己に対する認識＞
財団法人日本青少年研究所が行った「中学生・高校生の生活と意識調査報告書」（平成２１年３月）によれば，例えば，「自分はダメな人間だと思う」との項目に対し「とてもそう思う」又は「まあそう思う」と回答した者の割合が，日本は高校生：６５．８％（韓国４５．３％，米国２１．６％，中国１２．７％），中学生：５６．０％（韓国４１．７％，米国１４．２％，中国１１．１％）と，調査を行った４か国中，最も高くなっている。

*7 ＜これまで提言された様々な能力・資質＞
○「キー・コンピテンシー」（多様化し，相互につながった世界において，人生の成功と正常に機能する社会のために必要な能力として国際合意）
・①言語や知識，技術を相互作用的に活用する能力
・②多様な集団における人間関係形成能力
・③自律的に行動する能力
・①～③の核となる考える力
○「生きる力」（いかに社会が変化しようと必要な能力であり，主として初等中等教育段階において身に付けるべきものとして中央教育審議会で提言）
・基礎基本を確実に身に付け，いかに社会が変化しようと，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力。
・自らを律しつつ，他人とともに協調し，他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
・たくましく生きるための健康や体力など
○「基礎的・汎用的能力」（社会的・職業的自立，社会・職業への円滑な移行のために必要な力として中央教育審議会で提言）
・分野や職種にかかわらず，社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力。「仕事に就くこと」に焦点を当て，実際の行動として表れるという観点から，「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の四つの能力に整理。
○「課題探求能力」（２１世紀の大学において育成すべき能力として大学審議会で提言）
・主体的に変化に対応し，自ら将来の課題を探求し，その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力
○「学士力」（学士課程共通の学習成果に関する参考指針として中央教育審議会で提言）
・①知識理解（専門分野の基礎知識の体系的理解，他分野・異分野に関する知識の理解，人類の文化・社会と自然に関する知識の理解）
・②総合的な学習経験と創造的指向（獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し，自ら立てた新たな課題にそれらを適用し，その課題を解決する能力）
・③汎用的技能（コミュニケーションスキル，数量的スキル，情報リテラシー，論理的思考力，問題解決力）
・④態度，志向性（自己管理力，チームワーク，リーダーシップ，倫理観，市民としての社会的責任，生涯学習力）
○「社会人基礎力」（社会人基礎力に関する研究会で提言）
・「職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な基礎的な力」として①前に踏み出す力（アクション），②考え抜く力（シンキング），③チームで働く力（チームワーク）の三つの力とそれらを構成する１２要素に分類。